

## グローバル戦略車の開発を加速

# いすゞの技術・研究開発活動

いすゞは、常に世界市場に展開することを念頭に置いて、商品開発、研究開発を推進しています。優れた安全性・経済性・環境をキーコンセプトに、性能・品質のあらゆる面で世界標準を目指すグローバル戦略車を投入し、常に市場をリードする独創的なメーカーであり続けたいと考えています。

### 次世代を見据えた「SEEテクノロジー」

いすゞは、世界中の人々から信頼される車づくりを目指し、「信頼の追究」を開発理念として定めています。商品開発のベースコンセプトとしているSEEテクノロジーとは、Safety（安全）、Economy（経済）、Environment（環境）の頭文字を組み合わせたもの。この3つの分野で世界最高水準の高度な技術を構築することを目指しています。

「安全性・経済性」と「環境負荷の低減」を両立させた新しい価値を創造し、グローバル市場に提供していくことが、私たちの変わらぬ目標です。



### 「SEE-GLOBAL」 中・小型車の統合開発

新型の「エルフ」「フォワード」の開発では、小型トラックと中型トラックを一つのグループとして捉え、「SEE-GLOBAL」をプロジェクト・コンセプトに、世界市場に通用するトラックを目指しました。世界のニーズを満たす最低限の仕様を「BASE」と定義し、それだけでは満たせない法規制や使用環境といった各国の要求を「OPTION」として展開する開発手法を採用しました。

### デジタル開発の導入

世界戦略車の開発にあたり、いすゞは本格的なデジタル開発を導入しました。3次元CADを駆使したシミュレーションやコンピュータによる解析手法は開発の効率化を実現し、開発期間の短縮に大きく貢献しました。

### 次世代ディーゼルエンジン D-CORE

D-COREとは、いすゞ独自の思想・技術・性能を備えた、次世代高効率ディーゼルエンジンシリーズのことです。排気量あたりのトルクを可能な限り高めるとともに、軽量・コンパクト化を追求することで、燃費性能と積載効率の向上を実現しました。

「燃焼最適化技術」「排ガス後処理技術」「電子制御技術」の3つのテクノロジーの融合により、環境性能と経済性能を兼ね備えたディーゼルエンジンが誕生しました。



### トヨタと小型ディーゼルエンジンで業務提携

2007年8月、いすゞとトヨタ自動車は小型ディーゼルエンジンの開発及び生産・供給に関する業務提携を行うことを合意しました。

共同開発するエンジンは、欧州市場向けトヨタ車に搭載する1.6リットルクラスのアルミブロック製のディーゼルエンジンで、両社の技術力とノウハウを結集し、世界 No.1 の性能をもつディーゼルエンジンの開発・生産を目指します。生産開始時期は2012年を予定しています。

### 日野自動車と共同開発に合意

いすゞと日野自動車は2007年8月、エンジンの排出ガス後処理システムと大型トラック用キャブ(運転台)を共同開発することで合意しました。両社が保有する先進技術を活用し、開発資源の効率的運用を図ることで、今後更に厳格化する各国の環境規制への対応等に伴うコスト負担を軽減し、お客様により良い商品を提供していくことを目的としています。

いすゞと日野は、両社折半出資による「ジェイ・バス株式会社」を通じてバス製造事業での協業を行っているほか、トラック分野でもユニット供給で協業関係にあります。

### 低公害車の開発

ディーゼルエンジン車の技術を柱に、いすゞは地球環境に配慮した、低公害車の開発も積極的に行っています。石油代替燃料である、天然ガスを燃料とするCNG(圧縮天然ガス)車は、PM(粒子状物質)をほとんど排出せず、CO<sub>2</sub>の排出量も低い、極めてクリーンな低公害車です。最新の燃料噴射システム「MPI(マルチポイントインジェクション)」を採用したエンジンの開発により、優れた燃費性能とクリーンな排ガス性能の両立を実現しました。

いすゞではまた、D-COREシリーズのディーゼルエンジンをベースに、独自のハイブリッドシステムを搭載したディーゼルハイブリッド車を開発しました。ディーゼルエンジンのみでも走行可能なPTO型パラレル駆動方式や、優れた寿命を誇るリチウムイオンバッテリーの採用により、商用車に求められる信頼性と経済性、環境性能を持ち合わせた低公害車が誕生しました。